

No.31

2009.1.30

いしかわの遺跡

第10回 古代の暮らし体験まつり



10回目となる「古代」の暮らし体験まつり」は、埋蔵文化財センター本館、体験工房、古代体験ひろばを会場として、平成20年10月4・5日(土・日)に開催されました。

ハンヌリの皆さんによる韓国伝統打楽器の演奏で、まつりの雰囲気盛り上げていただきながら、さといもや雑穀の収穫、復元住居の屋根葺き、縄文弓矢体験など、古代の暮らしを気軽に体験していただけるよう各種コーナーを設け、来園の皆さんに楽しんでいただきました。



財団法人 石川県埋蔵文化財センター

Ishikawa Archaeological Foundation

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1

TEL 076-229-4477 FAX 076-229-3731

E-mail mail@ishikawa-maibun.or.jp

ホームページ <http://www.ishikawa-maibun.or.jp/>

古代体験
古代の暮らし体験まつり



火おこしてオ～ブニング



とまらない! どだまづくり



やっぱり"まが玉"



"組みひも"の不・思・議



土器野焼きF/風物(ブンムル)



い～い感じ"弥生パッジ"



"今夜の"さといもゲット!"



縄文なべはいけます!?



まいぶん・クイズ・玉!



森の狩人の首尾は?

平成20年度 古代体験学習講座「縄文 土器づくり」

平成20年9月15日(月・祝)に開催された第3回講座「縄文 土器づくり」は、毎年実施している大人気講座の一つです。今年度は、煮炊きの器である「深鉢(ふかばち)」の製作をとおして、当時の人びとが器に込めた「想い」や、土器づくりという「暮らし」の一コマを体験していただきました。

本物の縄文土器をお手本に、先人のワザにならって作った土器は、古代の暮らし体験まつり初日に野焼きを行い、個性豊かな作品に仕上がりました。



本物の土器を見ながら、まずは形づくり



お母さんと一緒に文様づけ

出前教室

平成20年度 親と子の発掘体験教室(かが)

平成20年度親と子の発掘体験教室(かが)は、平成20年7月26日(土)、金沢市畝田B遺跡を会場に開催され、20組44名が参加されました。当日は、炎天下、皆さん汗だくになりながら、弥生時代や平安時代の溝を発掘され、土器が見つかるたび、あちこちで歓声が上がっていました。

午後は、発掘した土器についた泥を洗い落とし、自分がどんなものを発掘したのか、しっかり観察し、レポート(埋メモリー)にまとめました。

最後に「こども考古学者」の認定証を受け取り、発掘体験教室の終了となりました。



平成20年度 古代の「暮らし」体験講座「親子で古代の暮らし体験」

「親子で古代の暮らし体験」は、夏休みの終わり、平成20年8月30日(土)に開催されました。

まずは、貫頭衣を试着して古代人に変身。狩(丸木弓の試射)の獲物をさばき(石器の試し切り)、もみぎりで火をおこし、古代米を炊き、鍋料理をつくります。料理ができ上がるまでは現代人に戻り、3棟の復元住居の解説を聞いてワークシート(埋レポート)を作成。

お昼は古代米と(縄文)鍋を味わい、午後は天然染料で染めた和紙を表紙にして、「古代の暮らし 埋レポート」の完成です。



平成20年度 親と子の発掘体験教室(のと)

金沢会場に続いて、平成20年8月9日(土)、七尾市七尾城跡において、親と子の発掘体験教室(のと)が開催されました。夏休みを活用して県外から来られた方々を含めて、16組33名が参加されました。当日も炎天下ではありましたが、会場には風が吹き渡り、予想外(?)に過ごしやすい教室となりました。

皆さんで建物の柱跡や石組みの井戸などを発掘し、なかには、大陸から輸入された銭貨や陶磁器を発見された方もいらっしゃいました。

本教室をとおして、中世の七尾城下の生活のようすが身近に感じられたでしょうか。



平成20年度
発掘調査から

杉平円山1・2号墳

杉平円山(えんやま)・2号墳は、のと鉄道旧輪島駅から南東へ約600mに位置します。今回、急傾斜地崩壊対策事業を調査原因として、380㎡を対象に発掘調査を実施し、古墳を2基確認しました。1号墳は一部分の調査ですが、径約20mの円墳であると推定されます。周溝及び墳丘盛土を確認し、周溝から須恵器の甕が出土しました。

2号墳は径約8mの円墳と推定され、1号墳の南側に位置します。周溝及び埋葬施設を検出しており、埋葬施設に近接して出土した須恵器提瓶から、6世紀代の古墳と推定されます。

なお、2号墳の墳頂部において、中世の塚を1基検出しました。同墳の墳丘を利用して構築したもので、周囲において石列を検出しています。また、弥生時代後期の竪穴住居を1棟検出しており、調査区及び周辺に該期の集落が営まれていたものと推定されます。



古墳の位置(矢印) 河原田川下流域を見下ろす眺望の良い丘陵上に立地します。



古墳の調査 手前が1号墳周溝、奥が2号墳。次々現れる木根や蛇、ムカデに驚きながらの調査です。



塚の調査 古墳の上から石列? 珠洲焼が出土して、中世の塚であることがわかりました。

平成20年度 発掘調査遺跡

	遺跡名	所在地	主な時代
1	飯田町遺跡	珠洲市飯田町	中世・近世
2	杉平円山1・2号墳	輪島市杉平町	古墳
3	栄町遺跡	七尾市栄町	奈良・平安
4	七尾城跡	七尾市小池川原町	中世
5	大泊A遺跡	七尾市大泊町	奈良・平安
6	小竹ヘブタB遺跡	中能登町小竹	中世
7	加茂遺跡	津幡町加茂	弥生~奈良・平安
8	畝田B遺跡	金沢市畝田中	弥生~中世
9	金沢城跡	金沢市広坂2丁目	奈良・平安、近世
10	二日市イシパチ遺跡	野々市町二日市町	弥生~近世
11	横江D遺跡・二日市イシパチ遺跡	白山市横江町ほか	縄文・弥生・中世
12	中新保遺跡	白山市中新保町	弥生~中世
13	番匠遺跡	白山市番匠町	奈良・平安~中世
14	番匠鎌田遺跡	白山市番匠町	中世
15	五歩市遺跡	白山市五歩市町	弥生~中世
16	分校C遺跡	加賀市分校町	中世~近世



環日本海文化交流史調査研究集会

平成20年10月24日(金)に、環日本海文化交流史調査研究集会を開催しました。集会は平成12年度から毎年開催し、本年度で9回目です。今回のテーマは「弥生時代の家と村」です。

大陸から北部九州へと伝わり、列島に広まった弥生文化は、各地に新しい生活をもたらし、縄文時代に見られなかった住居や集落を出現させています。そこで今回は生活遺構である住居に注目し、その規模や構造、集落内での配置や他の遺構との組み合わせを検討することで、日本海沿岸地域における弥生時代の「暮らし」について具体的に考えてみることを目的としました。

報告は、日本海に面する北海道から九州までの各地域別に8名の方々が行いました。弥生時代のはじめから住居の形が円形と方形を主とする二つの系列が存在しています。円形の竪穴住居には九州の松菊里(しょうきくり)型が有名ですが、東北地方の竪穴住居がすべて円形であったことは意外な発見でした。また、当センターの浜崎悟司さんが「小環状溝」という今まで盲点のような遺構の存在に注意されたのも、新たな研究成果です。

最後の全体討論では、概ね九州から北陸までは縄文時代とは明らかに違う「弥生時代の家」が確立する地域となり、東北と北海道は逆に縄文時代からあまり変化しない「弥生時代の家」が展開する地域となることを確認しました。そして、最も基本的な「暮らし」の単位である「家」と「村」に様相差があるということを確認し、各地域の弥生時代社会が多様であったことがわかりました。

翌10月25日(土)は、資料見学会を行いました。まず当センターの古代体験ひろばに復元された建物を視察した後、主な弥生時代の遺跡から出土した土器などを検討しました。竪穴住居出土土器として小松市額見町西遺跡(4号竪穴、9号竪穴)、小松市一針B遺跡(S101)、金沢市藤江C遺跡(S1401、S1404、S1502)、金沢市梅田B遺跡(S11)、宝達志水町宿東山遺跡、中能登町谷内ブンガヤチ遺跡の土器を検討しました。住居構造の地域性を出土土器とともに実感できた見学会でした。



討論のようす



質問に答えるパネリスト



資料見学会のようす

古代
体験

平成20年度 古代体験学習講座「古代 須恵器づくり」

平成20年10月19日(日)に開催された第4回講座「古代 須恵器づくり」では、古墳時代の中頃以降、食器として使われた「椀つき」と、貯蔵具の「壺」や「瓶(へい)」の製作を行いました。職員による事前の実験では、回転台をなかなか使いこなすことができず、不安を抱えたまま当日を迎えましたが、そんな心配はどこ吹く風！皆さん上手く使いこなされ、たくさん、作品を製作されました。

11月21日から、復元古窯で薪を燃料に74時間かけて焼き上げた作品は、今年も自然釉と炎がつくり出す風合い豊かな「須恵器」に仕上がりました。



回転台を使って形づくり



「須恵器」の完成！

平成20年度 古代体験学習講座「体験 古代の宴」

平成20年12月7日(日)に開催された本講座では、古代の文献の記述などを参考に、赤米(古代米)飯、野菜の和え物、鶏肉とカブ菜の羹(あつもの：汁物)、さめのたれとシカの干し肉の炙り物(あぶりもの)、芋粥(いもがゆ)、蘇(そ)、亥の子餅(いのこもち)の計7品の調理・加工・試食体験を行いました。

参加者の皆さんは、協力して、普段あまり見たり食べたりすることのない料理の調理に熱心に取り組み、完成後、復元製作した須恵器の食器に盛り付けた古代の品々に舌鼓を打っておられました。



上手に切れるかな？



ペタン、ペタン。お餅つき

平成20年度 期間限定随時体験～秋～「体験 古代の文房具」

平成20年11月1日～7日の「いしかわ教育ウィーク」期間中、小学校5年生以上を対象とした随時体験「体験 古代の文房具」を実施し、「木簡づくり」と「陶硯づくり」を行いました。

「木簡づくり」では、小刀で木の板を削って木簡を作り、墨と筆で字を書きました(写真左)。「陶硯づくり」では、粘土で硯を作り(写真中・右)、11月21日から24日にかけて、復元古窯で焼きあげました。



収蔵品ギャラリー

当センターが保管している数多くの出土品の中から、選りすぐりの「収蔵品」をご紹介します。今回のテーマは「文房具」です。

収蔵品No.18

じゅうきやくつき えん めん けん
獣脚付円面硯 - 金沢市 戸水C遺跡 -

古代には、文房具として、陶硯(とうけん)とよばれる須恵器の硯(すずり)が用いられました。その形から、ほとんどのものが、硯面が円形のもの(円面硯)と台形のもの(風字硯 ふうじけん)に、大きく二つに分類されます。円面硯は奈良時代を中心に用いられ、平安時代になると風字硯が主流になっていくようです。

本収蔵品は、硯面の直径が23.5cm、高さは9cm、円面硯の台の部分の三方に、獣の足を象(かたど)った飾り(獣脚)や、眼のような形の透かしが付けられた、たいへん珍しいものです。獣脚の上部には、獣面が線刻されています。邪気(じゃき)を払う鬼神をあらわしているともいわれます。その祖形は中国・隋唐時代にあるようですが、本品は9世紀前半(平安時代前期)に南加賀で作られたもののようです。獣足の数がかなり少なくなり、獣面も簡略化されています。しかし、その影響を十分に感じさせる資料といつてよいでしょう。

現在は金沢港の近隣に位置する戸水C遺跡では、1975年から1996年までの間に、12次に亘って調査が行われ、大型の掘立柱(ほったてばしら)建物跡や井戸、港を意味する「津」の墨書土器など



が見つかっており、かつて、平安時代の中頃(10世紀)においても、港を管理する役所があったものと考えられています。

硯面は研磨されていますが、墨の痕跡はほとんど見られません。とても大切に使われた品なのではないでしょうか。

ご覧のように、特徴的な形態で、印象が深かったため、作業員さんがいち早く記憶を辿り、調査員が収蔵庫へ駆け付け、別々の年度(1980・81・90年)の離れた調査区で出土した3片のかけらが、再び一つになることができたエピソードを持っています。



訪ねてみよう加賀・能登の遺跡

国指定史跡 東大寺領^{よこえのしょう}横江荘遺跡 荘家跡

東大寺領横江荘遺跡荘家跡は、白山市横江町に所在し、手取川が形成した扇状地の北東の端に立地します。横江荘は、正倉院に伝わる文書に東大寺の所領としてその名がみえるものの、正確な位置は不明でした。昭和45(1970)年、鉄工団地を造成する際に発掘調査が行われ、大型を含む複数の建物が検出され、墨書(ぼくしょ)土器、施釉(せゆう)陶器、硯(すずり)などが出土しました。出土した土器の中に、荘園の管理事務所を示す「三宅」と書かれた墨書土器があったことから、荘家跡と推定されるようになりました。

文献にあらわれた初期荘園(奈良時代～平安時代初め)の荘家を具体的に知ることができる重要な遺跡として、昭和47年、国史跡に指定され、指定地は現在、史跡公園として整備され、発見された建物の柱の位置が表示されています。

また、JR松任駅近くの白山市立松任博物館には、出土した土器や荘家の復元模型が展示され、建物の一部も実物大に復元されています。史跡公園と併せて訪ねられてみてはいかがでしょうか。



復元模型

白山市立松任博物館

所在地：白山市西新町168-1

電話 076-275-8922

交通：JR北陸本線松任駅より徒歩3分



横江荘遺跡 荘家跡

所在地：白山市横江町

交通：JR北陸本線松任駅より車で10分

お問い合わせ：白山市教育委員会歴史遺産調査課

電話 076-274-9586